佐賀の真ん中から日本へ
「文教の里　多久」が放つ
60年目の
新たなヒト✴ヒカリ

60 多久



ヒト✴ヒカリ

―緑園に輝く―みんなで創る 文教・安心・交流のまち 多久

市制施行60周年記念
佐賀県多久市勢要覧



Contents

01 ◎プロローグ　60年目の多久へ
02 ◎巻頭特集　新しいヒト＊ヒカリ
「緑園」に輝く多久をゆく。

06 ◎ヒト＊ヒカリ×2万人 市民参画ドキュメント
60年目の多久は総力で「創る」。
一、みんなで多久の未来を「創る」
二、みんなで賑わいの駅前を「創る」
三、みんなで多久ブランドを「創る」

14 ◎日本の未来へヒト＊ヒカリ
めざすは日本一の文教の里。
- 日本に誇る「文教の里 多久市」
- 東原庠舎とは
- 小中一貫校東原庠舎
- 多久はなぜ「文教の里」となったのか
- 「文教の里」が生んだ偉人と今に受け継がれるその心
- 老いも若きも「学び」は多久の市民文化
- そして今、「文教の里」は新たな魅力となり全国へ―

20 **釈菜（せきさい）**
- 受け継がれる「文教」の思い
- 古き良き文化が新しいまちを創る

22 ◎60年のヒト＊ヒカリ
多久越の60年。
～市制施行60周年のあゆみ～

26 ◎統計資料編
資料に見る多久市

32 ◎エピローグ
市長インタビュー

教育熱心な多久で子育てできて良かった



多久のおもてなしの心を伝えたい



ヒト＊ヒカリ

多久四代領主多久茂文が、人々に学問の大切さを説き、人材育成に力を注いだ江戸の世から三百年余。脈々と受け継がれてきた「ひとづくり」の精神は、今、文教、教育への情熱と、ふるさとの明日を切り拓く市民参画の力を生み出し、個性きらめく誇り高き多久を創造し続けている。

おいしい野菜をありがとう！



利便性の良いアクセスも自慢です！

東京から2時間。
日本が誇る七賢人を輩出した佐賀県。
その佐賀県の真ん中が

多久市です。

佐賀県のほぼ中央に位置し、四方を山に囲まれた自然豊かなまち、多久市。博多から車で1時間、東京からは空路で2時間、長崎自動車道や国道・JRが通り、アクセスしやすい、利便性の高いまちです。

多久の玄関口JR多久駅



平成20年に移転し、新しくなったJR多久駅。多久駅周辺は駐車場の充実のほかに、「多久の顔づくり」をテーマとした、市の自然や文化・歴史などの魅力に触れることができるよう、駅周辺もリニューアルしました。

prologue

女性も
輝ける多久
にしたい！



多久の元気を
みんなで
発信したい！



美しい風景、
伝統の文化、
もっと多久を
PRしたい！





いつでも
美しい
まちにしたい！



多久聖廟と、
伝統行事
「釈菜」を
もっと見に来て
もらいたい！



多久の伝統野菜
女山大根を
ブランド化したい！



ヒト✳ヒカリ
60年目の多久へ

【巻頭特集】

✶新しいヒト✶ヒカリ

「緑園」に輝く。多久をゆく。

ー緑園に輝くーみんなで創る文教・安心・交流のまち 多久

多久市は、緑豊かな美しい自然環境を誇るまちです。

木々の隙間から射す光、耳を澄ませば小川のせせらぎや

鳥の鳴き声が聞こえてきます。







朋(とも)有り 遠方より来る
亦(また)楽しからずや ～『論語』

（意味　友だちがひょっこり遠くからたずねてきました。こんなに楽しいことはない。）

緑広がる盆地には、恵み豊かな農産物がたわわに実ります。
四季折々の美しい緑に囲まれた多久は、
まさに、住む人、訪れる人の心と体を癒す
「緑園」そのものなのです。











「緑園」に輝く多久をゆく。



西渓公園

西渓公園は、多久出身の炭鉱王「高取伊好」が私財を投じて整備した山水公園で、寒鶯亭（かんおうてい）や図書館（レンガ造りの書庫）とともに、当時の多久村に寄贈しました。春には約400本の桜やツツジ、秋には約180本の紅葉が公園をつつみ、一年を通じて四季の変化を楽しめます。





多久聖廟

多久四代領主多久茂文が、教育を復興し敬の心を育むため、宝永5年（1708年）に建てた孔子廟で、茂文の多久を四霊の住む理想郷にしたいという思いが、今なお美しい彫刻や絵などで残されています。



まちのいたる所に緑豊かな佇まいがあり、市民の心に潤いを与える癒しの空間となっています。



孔子の里ジュニアガイドが選ぶ多久の緑園❶

諸江（もろえ） 綾乃（あやの）さん

やっぱり西渓公園がきれいです。
多久聖廟も色々知ると楽しいですよ。

暮らしに輝く多久の「緑園」



【桜】



【二千年ハス】



【バラ園】



【ひまわり】

四方を山々に囲まれた盆地に位置する多久市では、寒暖の変化とともに、色鮮やかな四季の移り変わりが見られます。

春は桜花の下で心地良い風に吹かれ、夏は太陽の日をいっぱいに受けたひまわりが元気よく咲き、秋は紅葉と夕陽に山が染まり、冬は一面の銀世界へと変わります。そして梅の香りが、また次の春を運んでくるのです。

こうした自然の恩恵を受けた食も豊かです。通常の大根よりも糖度の高い「女山大根」や、非常に柔らかくトロッとした食感が美味の「桐岡なす」などの伝統野菜が古くから栽培されてきました。

また、まちを歩けば、その昔に火事の類焼防止のために植えられたという槙の生垣が小路を囲み、歩くだけで癒しを与えてくれます。

古くから自然とともに歳月を歩んで来た多久市。まちを囲む緑園は、これからも暮らしに輝きを、人々に和みと癒しを与え続けてくれます。



孔子の里ジュニアガイドが選ぶ
多久の緑園❷
藤山（ふじやま） 彩楓（さやか）さん

春には桜、夏には新緑、秋には紅葉、冬には雪が広がります。

多久市 インフォメーションシステム 「たくナビ」

多久聖廟、西渓公園周辺のスポットが検索できます。そのほかの見どころ、食べどころも満載!



多久市の観光要素を網羅!! ぜひ活用してください。







船山キャンプ場／夏でも朝夕は涼しく快適なキャンプ場。展望台からの夜景も絶景です。



九州自然歩道／天山・八幡岳までのルートがあり、道中、四季折々の草花が目を楽しませてくれます。

孔子の里ジュニアガイドが選ぶ
多久の緑園❸
岡田（おかだ） 美洸（みひろ）さん

緑がいっぱいの多久は季節にあわせて咲く花もいろいろ。川の水もきれいで冷たくて気持ちがいいですよ。










ヒト✳ヒカリ×2万人

市民参画ドキュメント

60年目の多久は総力で「創る」。

みんなで一

多久の未来は
創っていくのは、
私たち市民ばい。



多久の未来を「創る」

真の協働力へ向けて

「ひとりでおもう、こんなこと。みんなでできる、あんなこと」をサブテーマに、まちづくりへの様々な想いをもった個人が集い、ワークショップ形式の講座を開講しました。「わたくし事」を参加者同士で課題解決しながら、真の協働力のある市民団体を育て、様々なネットワークの展開を図っています。

市を取り巻く社会・経済情勢等への対応と次世代につながる自立した市を市民とともに築いていくため、多久市は平成23年3月に第4次多久市総合計画を策定しました。

地域の特性と時代の潮流、市民の思いから地域課題を見据え、今後10年間の計画的な行政運営を進めていくための方針として、本市の目指す将来像を「―緑園に輝く― みんなで創る 文教・安心・交流のまち 多久」と定めました。

「―緑園に輝く―みんなで創る文教・安心・交流のまち」に込められた多久市の思い

この将来像には、緑豊かな自然に囲まれた「緑園」のイメージにふさわしい環境の中で、地域としてキラリと輝き、人々も個性や才能を伸ばし輝くまちを目指して実現するために、「文教」、「安心」、「交流」を基軸に充実促進し、より良い未来を市民と行政が一緒になってつくりあげていく」という思いを込めています。



多久市の将来像

―緑園に輝く―

みんなで創る 文教・安心・交流のまち 多久

緑園
- 盆地の立地で周囲を緑豊かな環境に囲まれ、緑の庭園のイメージにふさわしい環境

輝く
- 地域として「小さくともきらりと光る」まち
- そこに暮らす人びとも「個性や才能を伸ばして輝く」まち

みんなで創る
- みんなで取り組む参画と協働のまちづくり
- 行財政改革の推進と市民に開かれた自治体経営

「文教」のまち
- 教育重視・子育て応援の心豊かなこどもを育むまちづくり
- 生涯学習・文化活動の充実で市民一人ひとりが輝くまちづくり

「安心」のまち
- 生涯安心の健康・医療・福祉のまちづくり
- 自然と共生する安全で緑豊かな生活環境づくり

「交流」のまち
- 交流と定住を支える生活基盤づくり
- 観光振興と産業間連携で雇用と活力を生み出す産業づくり



みんなで目指そう値

実績や成果を5年間にわたって、わかりやすく評価できるよう適切な成果指標を選定し、現状値（平成21年度実績）を基準に、5年後（平成27年度）までに達成を目指す成果指標値を設定しています。

この目標値は、行政だけで目指すものでなく、市民との協働で達成を目指していくべきものと考えられることから「みんなで目指そう値」とよびます。



みんなで創る
安心のまち



［基本目標２］

人と自然にやさしい 安心・安全のまち 多久

“乳幼児からお年寄りまで1人ひとりの生涯にわたって安心できる長寿健康・医療・福祉のまちづくり”、“快適で安全な自然と共生できる潤いある生活環境づくり”を進めます。



自然と共生

「安全で緑豊かな生活環境づくり」を目指し、自然・景観の保全と循環型社会づくりの推進、防災・防犯などの安全対策の充実に努め、快適で安心安全な生活環境づくりを進めます。



生涯安心

「人にやさしい健康・医療・福祉のまちづくり」を目指し、市民の健康づくり体制や地域医療体制の充実、地域福祉体制づくりの推進、社会保障等の推進を図ります。

みんなで創る
文教のまち



［基本目標１］

人と文化が輝く 孔子の里・文教のまち 多久

“孔子の里にふさわしい、人が輝く教育文化のまちづくり”、“子どもも豊かな心ですくすく育つ教育・子育て応援のまちづくり”を重点的に推進し、“文教のまち”の実現を目指します。



市民が主役

「人が輝く文化・スポーツ交流のまちづくり」を目指し、市民主導のスポーツ・文化交流活動の促進、文化財の保存と活用、生涯学習社会の形成、国内外都市との交流を推進します。



子どもすくすく

「教育重視・子育て応援のまちづくり」を目指し、基礎学力向上等の学校教育や地域教育、子育て支援の充実を図り、安心して子どもを育てられる環境づくりを進めます。

みんなで創る
協働のまち



［基本目標４］

地域協働で築く 持続可能なまち 多久

自立したまちづくりを進めるため、市民と行政の協働体制の確立を図るとともに、行財政運営の改革を進め、将来にわたって持続可能で効率的なまちの実現を目指します。



市民と築く

「開かれた自治体経営と持続可能なまちづくり」を目指し、協働のまちづくり体制の整備、情報公開と広報広聴の充実、持続可能で効率的な自治体経営の推進を図ります。



市民が築く

「みんなで取り組む参画と協働のまちづくり」を目指し、コミュニティ・ボランティア・NPO活動の充実を図るとともに、人権の尊重、男女共同参画の推進を図ります。

みんなで創る
交流のまち



［基本目標３］

いきいきと 交流・定住するまち 多久

若者定住を促進し、人口減少に歯止めをかけるため、定住と交流の充実を生み出す生活基盤づくり、そしてその基盤である豊かで活力に満ちた産業づくりを進めます。



産業間連携で拓く

「雇用と活力を生み出す産業づくり」を目指し、担い手の育成やブランド化、地産地消を推進するとともに、農商工・観光の連携による地域産業の振興を図ります。



いきいきネット

日々の元気な暮らし方は、地域の元気の基本です。「交流と定住を支える生活基盤づくり」を目指し、中心市街地や都市基盤の整備、住宅用地の確保、道路・公共交通の充実を図ります。



ヒト✳ヒカリ×2万人

【市民参画ドキュメント】

みんなで

二

多久駅と一緒に
まちをもっと
元気にしていきたい。



賑わいの駅前を「創る」

よって見んしゃい！軽トラ市多久

中心市街地の活気を取り戻そうと、平成23年6月に茄原（あざみばる）商工連盟が開催した「軽トラ市多久」は、朝早くから多くの市民で賑わう毎月の恒例イベントとして成長を遂げています。









毎月第2日曜日に多久駅周辺で開催されている「軽トラ市」。地元産のとれたて野菜やまんじゅう、その他にも鮮魚、肉類が市価より安く販売されます。



多久駅前広場を賑わいの一大拠点へ

中心市街地活性化事業の一環として、平成25年はサガン鳥栖パブリックビューイング、平成26年には、書道家山口芳水さんと多久市在中の藤井啓輔さんとのコラボによる書道ライブとプロジェクションマッピングを開催。美しいイルミネーションの中、駅前広場は多くの参加者で賑わいました。

もっともっと魅力的な駅前に、女性も子育て世代もシニア世代も産業リーダーたちもみんなで創る多久へ―。



多久駅周辺賑わいまちづくり会議

多久駅周辺を住みやすく、賑わいのある、活気あるまちにするために必要なことについて話し合いを行っています。



まちおこしくらぶ活動！「ハピたくらぶ」

20～30歳代が中心となって多久市を盛り上げたいと活動を行っています。活動を通して多久市も自分たちもハッピーになるように。それが「ハピたくらぶ」のモットーです。



勢いを増す世代を超えた賑わいづくり

多久市には、まちに賑わいと潤いを創ろうと、イベントやまちづくりに積極的に参加する個人や団体が多数あり、総力でまちづくりに取り組んでいます。

多久まつりや多久山笠などのイベントへの参加をはじめ、こども見守り隊活動やあいさつ運動、多久聖廟の美化活動や特産品・ブランドづくりなど、賑わいの創出のためにさまざまな世代が創意工夫をこらし、多岐にわたる活動を行っています。

老若男女の垣根を越えた賑わいづくりは、さらに勢いを増し、市民の輝く笑顔は多久市の明るい未来を照らしています。









賑わいづくり

多久まつりや多久山笠など、多久市のイベントは園児からお年よりまで、市民総出で演出します。商工会青年部の活動など、若い力も集結し、さらに賑わいを生み出しています



ヒト＊ヒカリ×2万人
【市民参画ドキュメント】

桐岡なす

一般のなすに比べて色味が明るく、ずんぐりとした形の桐岡なす。実はふんわりと柔らかく、トロッとした食感が特徴で、長らく多久市その周辺でしか流通していなかった幻のなすです。

みんなで 二



多久ブランドを「創る」

多久で育てた伝統の品々をもっとPRしていきたい。

多久市ふるさと情報館「幡船の里」

「四季折々の新鮮な農産物を、安心・安全・安価で消費者に」を合い言葉に発足し、周囲を山々で囲まれた自然豊かな多久の地で育てられた女山大根や桐岡なすをはじめ、旬の食材が所狭しと並びます。また、元気な高齢者が集う地域コミュニティ拠点としての役割も果たしています。







▲ウリ漬

「幡船の里」では、四季折々の新鮮な農産物のほか、漬物、花、平だごなど、生産者の思いがつまった品々を販売しています。



▲平だご



女山大根

約300年前から西多久地区に伝わる伝統野菜。赤紫色の大根で、強い甘みと歯切れの良さが特徴です。酢の物やサラダはもちろん、煮込んでも煮崩れしない大根です。



女山大根まつり

郷土野菜である女山大根の普及啓発と販路拡大につなげる目的で、毎年1月に「七草粥会・女山大根まつり」が開かれ、市内外から多くの家族連れが訪れます。祭りでは、ふろふき大根やなます、ゼリーなど、女山大根を使った多彩な料理を楽しむことができます。

「食」でつながる、人との絆。
総力をあげて多久ブランドを全国へ―。



江戸時代からの伝統技法を歳月をかけて現代に復興

女山大根は、通常の倍近い時間をかけて栽培するため糖度が高く、抗酸化作用と消化分解に優れており、その美しい色彩を活かしたレシピが多数考案されています。



多久にしかない、多久にしかできないブランドを

多久市では「多久地区JA味噌加工グループ」が製造する特産の「孔子みそ」を使った「味噌カツ丼」が、さが地産地消コンテストで優秀賞に選ばれたほか、市内の飲食店（たく孔子みそ愛好会）が連携し、ブランド化に向けて取り組んでいます。また、伝統野菜の「女山大根」を使ったアイスクリーム「乙女のこころ」など、美味しく健康になれる商品開発にも取り組んでいます。

また、市内の飲食店が参加してクーポンイベントやSNSを活用した情報発信を行うなど、行政と民間が協力して、多久にしかない、多久にしかできない『多久ブランド』づくりに、まち全体が総力をあげて取り組んでいます。



▲女山大根アイス「乙女のこころ」









ブランド化へ

観光や食のブランド化を促進するため、多久市の観光キャラクター「多久翁さん」がイベント等で特産品をPRしています。また、ブログやFacebookなどにより、さらにまちを盛り上げてくれています。

日本の未来へ ヒト✳ヒカリ



目指すは日本一の文教の里。

全国に誇る「文教の里 多久市」

「多久の雀は論語をさえずる」「百姓に道を問えば鍬を置いて道を説く」と言われたほど江戸時代から文教を重んじてきた多久市。孔子の教えと、多久茂文（たくしげふみ）が開拓した学びの文化は300年を経た今も息づいており、学校の授業でも「論語カルタ」や「論語の素読」などを取り入れるなど、文教は市民の生活の一部となっています。

多久市では更なる教育力の向上のため、平成25年度から小中一貫校の導入にともない「学力向上」「心の教育」「多久学」「交流活動」「ICT教育」「国際化」の6本の大きな柱を立てました。

充実した学びの環境づくりや礼儀・思いやりのこころを育む「恕（じょ）」の教育活動の実践を通じて、子どもたちの健やかな成長を育む、「文教の里 多久市」を目指しています。

東原庠舎とは

元禄12年（1699年）に多久茂文が建てた学校で、鶴山書院ともいいました。
武士の子弟のみならず、
のちに百姓・町人の子どもでも
志あるものには門戸を開放するという
当時としては大変珍しい学舎でした。


多久茂文




現在の東原庠舎は、平成3年に宿泊型社会教育施設として、当時の面影を残しつつ現代風に再建され、学校のクラブ活動等の研修施設として利用されています。

東原庠舎は、元禄12年（1699年）に多久四代領主多久茂文が建てた学校で、明治2年（1869年）、我が国に新しい学制が施行されるまでの170年間、一貫して文武両道の学問の修得の場でした。また、身分を問わず学問を志す者にも入学を許可し、学問の地として、その名は遠く江戸にまで達しました。

のちに電気工学の先駆者となる志田林三郎をはじめ、明治刑法の草案者である鶴田斗南、肥前の石炭王と言われた高取伊好など、日本の近代化や郷土のために尽くした偉人を数多く輩出しました。

平成25年4月開校、平成の学問所
小中一貫校東原庠舎


スクールバス

佐賀県初
小中一貫教育の
市内全域一斉スタート。







学校レポート in 中央校
小川 風香さん

昼休みに小学部を呼んでミニコンサートを行ったり、小学部の先生に立腰教育（姿勢に注目した教育法）を教わったりしています。私は吹奏楽部なので演奏を小学部に聴いてもらえることがうれしいです。手本になれるよう頑張りたいと思います。

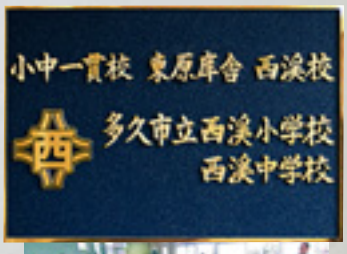






学校レポート in 東部校
藤本 志苑さん

小中合同の体育大会やあいさつ運動、文化発表会などさまざまなことに取り組んでいます。理科では9年生（中学3年生）と一緒に授業をして、とても勉強になりました。分からないことを中学生や中学校の先生に聞けるところがいいと思います。







学校レポート in 西溪校
鳥井 優斗さん

論語や論語カルタ、学び合い、釈菜の舞などに力を入れて取り組んでいます。同じ校舎にいるので、小中学生が気軽に話したり、遊んだり、一緒に協力して合唱や運動会を盛り上げたりと、交流が増えていると思います。

多久はなぜ「文教の里」となったのか

一、「多久茂文」とともに多久の文教の歴史をたどる



多久茂文は、佐賀二代藩主鍋島光茂の二男として生まれ、その後、多久茂矩の養子となり、貞亨3年（1686年）に17歳で家督を継ぎ四代領主となりました。

若い頃より学問を好み、儒学者・武富咸亮、佐賀藩の儒臣・実松元林に学びました。のちに多久の領主となり、元禄12年（1699年）、茂文が創建した東原庠舎は、人々に学問の大切さを説き、文武両道の精神のもと人材育成に寄与し、多くの偉人を輩出しました。

二、教育により人々の心を救おうと創建した「多久聖廟」

江戸時代、多久領は財政的に恵まれず、民の心は荒んでいたといわれています。多久四代領主を継いだ茂文は、多久領を治めるためには教育が必要と考え、宝永5年（1708年）、学問の象徴として孔子を祀る多久聖廟を創建しました。

以来、約300年間、住民の精神的なシンボルとして今も大切に保存されています。



三、100年後の未来を予測していた、日本電気通信の先駆者「志田林三郎」



志田 林三郎博士生誕記念イベント「おもしろキッズサイエンス」


志田 林三郎博士

東原庠舎からは、鶴田斗南や高取伊好など、日本や郷土のために尽くした偉人が数多く輩出され、その一人に現代のエレクトロニクス技術を予測していた志田林三郎がいます。

林三郎は安政2年（1855年）、東多久町に生まれ、幼い頃から『神童』と評され、身分制度の厳しかった当時において、異例の待遇によって教育を受けました。進学した工部寮（現：東京大学工学部）を主席で卒業後、イギリスに留学し、大学より最高の実験研究に贈られる「クレランド金メダル」を授与されるなど、わずか一年の在学中に数々の功績を残しました。

帰国後は、工部大学校初の日本人教授。工学部長に就任。人材育成と電気工学に尽力。明治21年（1888年）には日本初の『工学博士』となり、電気学会創設講演で語った未来予想には、テレビや携帯電話などがあり、林三郎の先見性は、現代においても高く評価されています。



「文教の里」が生んだ偉人と今に受け継がれるその心



四、文教の里に受け継がれる心

多久市では、「論語カルタ大会」や「論語の素読」をはじめとする、文教の里ならではの特色ある教育の輪が広がっています。孔子の教えである、人としての生き方が書かれた論語は、礼儀正しさや思いやりの心を育むとともに、一般の教育だけでは得ることのできない「学ぶ楽しさ」も教えてくれます。

論語を学ぶこどもたちの活躍は地域にも広がり、市内の小中学生がボランティアで多久市の観光名所や歴史を案内する「孔子の里ジュニアガイド」など、300年前に人々の心を救った文教の精神は、今なお受け継がれています。







論語カルタ大会

論語カルタとは、孔子の教えである「論語」を百人一首形式にしたもので、楽しみながら学べるよう、平成12年に考案されました。現在では市内外を問わず多くの参加者があり、白熱した競い合いが繰り広げられ、市を代表するイベントとなっています。



産業界で即戦力のものづくりのスペシャリストを養成する佐賀県立産業技術学院。



五、まちに輝く「学び」の精神

多久市では、論語教室や英会話教室などの学習をはじめ、まんじゅうやパンづくり、父親向けの料理教室など、老若男女問わず、市民の誰もが参加でき、生涯にわたって楽しく活動できる場が充実しています。

孔子の里教室では、絵てがみ・似顔絵教室や論語教室、太極拳教室などの講座を開催。市内外を問わずどなたでも受講できます。



老いも若きも「学び」は多久の市民文化

小学1年生から高齢者までの幅広い年齢層が、ミュージカルの稽古やさまざまな体験を通じて楽しく学べる多久ミュージカルカンパニー。



また、市民が主体となって企画・制作・運営する市民活動団体「たく市民大学 ゆい工房」では、新しいスタイルの生涯学習が人気を博し、まちに今もなお色濃く残る「学び」の精神・文化は、生涯学習の場でも生かされています。



公益財団法人 孔子の里
亀川 将平さん

多久は文教の里。もっと多くの多久のみなさんに学びの場を提供したいと平成16年に開校しました。論語などの伝統学習はもちろん、最近では「日本酒女子会」や「論語100問検定」の実施など新しい生涯学習のスタイルも提案しています。

たく市民大学 ゆい工房



花や土の性質など、ガーデニングの基礎知識を学び、素敵な寄せ植えをつくります。つくった作品は持ち帰ることができます。



300年前から地元で愛されてきた岸川まんじゅう。麹を発酵させてつくる懐かしい素朴な味わいが特徴です。



▲タブレットパソコンを活用した授業研究会

そして今、「文教の里」は新たな魅力となり全国へ―



▲論語100問検定

多久市では、学力の向上につながる論語を楽しみながら親しめるよう、論語カルタや論語検定などを取り入れ、礼儀正しさや思いやりのこころを育んでいます。観光地である多久聖廟を地元の小中学生が案内するジュニアガイドなど、取り組みが行われています。



▲孔子の里 ジュニアガイド

六、「学び」で広がる、新たな魅力

儒学の祖・孔子を祀る多久聖廟は、学問成就・合格祈願のパワースポットとして注目され、学校の教育現場においても、論語カルタ大会や論語検定を取り入れたり、孔子を祀る釈菜に地元の小中学生が参加したりするなど、地域の伝統を生かした教育を進めています。

さらに、平成25年度からは小中一貫校が開校し、伝統を生かした教育や地域の豊かな産業にふれる農業体験、新たに設定した「多久学」の学習、全教室に配備した電子黒板でのICT教育なども、「文教の里」の新たな魅力として全国へ発信しています。





全国ふるさと漢詩コンテスト

平成10年度より、儒学と文化の里づくりとして漢詩を募集し、全日本漢詩連盟会長の石川忠久（ただひさ）先生をお招きして「ふるさと漢詩コンテスト」を開催しています。毎年全国から多くの募集があり、最優秀作品は石碑に漢詩を記した漢詩碑が建立されます。

▲詳細はこちらから

受け継がれる「文教」の思い





釈菜

多久聖廟創建以来300年以上継承され、県重要無形民俗文化財に指定されている伝統行事。孔子の遺徳を讃える中国式の祭典です。また、聖廟前で披露する地元の学生たちの「釈菜の舞」、保存会による曲芸的で迫力ある「獅子舞」、西渓校小学部による「腰鼓」は必見です。

～せきさい～

釈菜

六、多くの市民や教育者の力によって伝えられる文教の誇り

多久聖廟で行われる釈菜は、春と秋の年2回開かれる多久聖廟の祭典です。市職員等が扮する「伶人（れいじん）」が奏でる雅楽の音が響き渡る厳かな雰囲気の中、孔子像と顔子（がんし）、曽子（そうし）、子思子（しし）、孟子（もうし）の「四配の像」に栗や甘酒など8種の品を供える祭典で、宝永5年



古き良き文化が新しいまちを創る





釈菜の舞

釈菜の舞は、市民が多久聖廟の祭典行事「釈菜」の文化的価値を高めるために、孔子の生誕地である中国曲阜市に二千年前から伝わる「祭礼楽舞」から取り入れた舞です。本場、曲阜市の小道具や衣装を身に着け、聖廟前の境内で舞を披露します。

（1708年）の創建以来、現在まで受け継がれています。

祭典の長にあたる「献官」の市長を筆頭に、市内各一貫校の校長らが供え物を運ぶ祭官を務め、釈菜や聖廟をうたった漢詩も献上されます。

会場は大勢の観光客で賑わい、市内の中高生による「釈菜の舞」をはじめ、保育園児による太鼓の演奏や「論語朗唱」、小学生による腰鼓や参列生徒の唱歌など、多くの市民・教育者などの力によって伝えられ、まさに多久市民に息づく文教の誇りといえます。



60年のヒト＊ヒカリ ―市制施行60周年のあゆみ―

多久越（たくえつ）の60年。

60年の歴史を持つ多久市。
激動の時代を歩んで来た多久市の軌跡を、今振り返る。



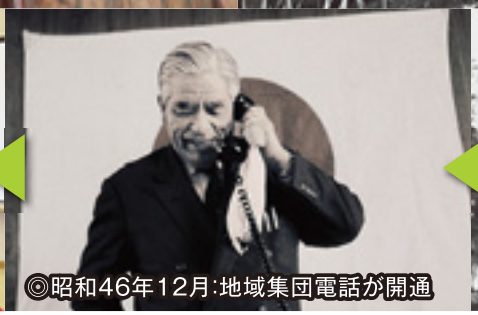
◎平成25年9月:多久市メガソーラー発電所開始式

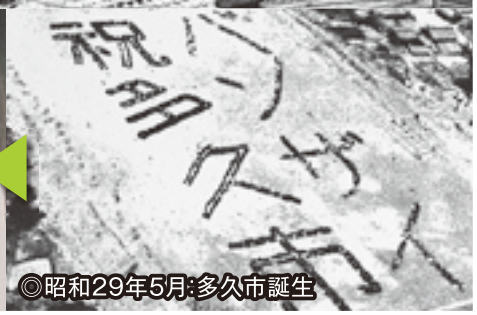


◎昭和47年以前の三菱古賀山鉱山の積み込み場



◎平成26年2月:多久市光ブロードバンド開局式


◎昭和46年12月:地域集団電話が開通


◎昭和29年5月:多久市誕生

昭和29年（1954年）
◉5月／1町4村（北多久町、東多久村、南多久村、多久村、西多久村）の合併により多久市となる◉6月／初代多久市長に吉木善久氏就任◉7月／市に監査委員を2人おく／市農業委員の選挙を実施◉10月／北部小学校南山分校を開設

昭和30年（1955年）
◉3月／市制施行後初の市議会議員選挙（32人選出、投票率89・96パーセント）◉4月／納所小学校開校／公選による教育委員生まれる◉10月／自主財政再建計画を策定し、財政再建を推進

昭和31年（1956年）
◉4月／財政再建適用団体（赤字再建団体）となる／北部小学校南山分校が北部第二小学校として独立◉5月／第2代市長に石志友二氏就任◉10月／教育委員が新教育制度により市長の任命による選出となる

昭和32年（1957年）
◉4月／第1回市民体育大会の開催◉5月／多久市第1号の多久町老人クラブ発足◉6月／多久聖廟の「聖龕（せいがん）」が国の重要文化財に指定（多久聖廟は大正10年3月に国の史跡指定、昭和8年1月には国の特別保護建造物指定、昭和25年8月に国の重要文化財指定を受けている）

昭和33年（1958年）
◉1月／多久町若宮八幡宮が県の重要文化財に指定される◉4月／多久原炭鉱閉山／北部第二小学校が緑が丘小学校に校名変更◉10月／多久聖廟修理復元工事（多久聖廟250年祭）／第1回多久市老人大会開催

昭和34年（1959年）
◉1月／有線放送電話事業を開始する◉4月／皇太子殿下御成婚記念及び市制施行5周年記念式典を盛大に挙行／支所の事務を縮小し出張所とする◉12月／新市町村建設促進法に基づき新多久市建設計画を策定

昭和35年（1960年）
◉4月／多久市報第1号発行◉5月／第3代市長に東郷嘉八氏就任◉7月／大干ばつのため自衛隊に出動要請◉10月／東多久駅裏に多久職業訓練所が開所

昭和36年（1961年）
◉1月／多久消防団常備部が発足（部員46人）◉2月／小城高等学校多久分校校舎が完成◉9月／第4代市長に藤井儀作氏就任

昭和37年（1962年）
◉3月／多久中央名店街落成◉7月／東多久小城炭鉱、別府炭鉱閉山◉10月／昭和バス岸川線開通◉11月／県営岸川防災ダム完成

昭和38年（1963年）
◉2月／明治鉱業立山炭鉱閉山◉4月／県立多久工業高等学校開校／市立養護老人ホーム「恵光園」開園◉5月／吉原炭鉱閉山◉6月／井手炭鉱閉山◉7月／番所炭鉱閉山

昭和39年（1964年）

◉4月／中多久駅開業◉5月／市制施行10周年記念式典／「多久の歴史」発行◉11月／東部簡易水道給水開始

昭和40年（1965年）

◉3月／赤字再建団体の指定の解除◉4月／多久市農協発足（6農協合併）◉6月／交通安全、暴力追放都市宣言

昭和41年（1966年）

◉1月／消防署庁舎完成◉2月／小城高等学校多久分校閉校◉4月／西渓中学校開校（中部中・西部中統合）／私立佐賀女子高等学校多久校舎第1回生入学

昭和42年（1967年）

◉1月／多久炭鉱、柚木原炭鉱閉山◉2月／多久電報電話局営業開始◉5月／上水道給水開始◉7月／集中豪雨により被害多発

昭和43年（1968年）

◉1月／三菱古賀山炭鉱閉山◉3月／明治百年記念造林

吾れ十有五にして学に志す

昭和44年（1969年）

◉3月／多久バイパス全線舗装完成◉11月／皇太子殿下サカエ電子を御視察

昭和45年（1970年）

◉3月／中央公園の一部遊戯施設が完成◉5月／番所に焼却場完成◉10月／第1回多久まつり開催／天山と八幡岳が県立自然公園に指定

昭和46年（1971年）

◉4月／南渓簡易水道給水開始◉6月／ナポレオン石が県の天然記念物に指定◉10月／「多久音頭」の歌と踊りの発表会／東多久駅民間委託駅となる◉12月／有線放送電話事業が廃止され地域集団電話が開通

昭和47年（1972年）

◉1月／畜産センター完成◉7月／集中豪雨により被害続出◉9月／多久市長期総合計画調査報告発表◉11月／最後の炭鉱であった新明治佐賀炭鉱が閉山

昭和48年（1973年）

◉6月／東部公園オープン◉7月／多久市体育センター完成◉7月／中央公園プール完成◉8月／唐津線からSLが姿消す◉9月／市役所新庁舎落成◉12月／天山斎場完成

昭和49年（1974年）

◉2月／川打家が国の重要文化財に指定される◉4月／市の花「うめ」、市の木「かえで」が決まる◉5月／市制施行20周年記念式典、市旗制定◉8月／九州横断自動車道多久インターチェンジ発表



❶


❷


❸

❶昭和34年4月：皇太子殿下御成婚記念及び市制施行5年記念式典／❷昭和48年8月：JR唐津線からSLが姿を消す／❸昭和51年10月：多久市陸上競技場で国体の競技が開催

昭和50年（1975年）

◉3月／旧三菱鉱アパート（4階建）分譲／中央公園オープン◉7月／全九州高校サッカー大会開催（多久工）

昭和51年（1976年）

◉1月／ごみ処理場完成◉4月／陸上競技場完成◉7月／船山・八久保簡易水道給水開始◉8月／第1回市民水泳大会◉9月／皇太子殿下と同妃殿下が第31回国体夏季大会ご臨席のため多久を御通過◉10月／第31回国民体育大会の少年サッカー競技が多久市陸上競技場で開催◉11月／皇太子殿下、同妃殿下行啓

昭和52年（1977年）

◉5月／市民憲章制定◉8月／緑が丘小学校にナイター施設完成◉9月／第5代市長に吉次正美氏就任◉10月／孔子の第77代子孫（孔徳成氏）多久聖廟を訪問◉11月／藤井儀作氏に初の名誉市民称号贈呈／西部簡易水道給水開始

昭和53年（1978年）

◉3月／市営砂原団地完成◉4月／茶園原遺跡から多量の石器出土／多久市商工会館完成／南渓簡易水道を上水道に統合◉6月／みどりが丘公園オープン

昭和54年（1979年）

◉5月／老人福祉センター「むつみ荘」完成◉8月／西部小学校校舎改築／多久市野球場完成◉10月／都市計画用途地域決定／第1回多久市美術協会展開催

昭和55年（1980年）

◉2月／多久聖廟釈菜行事が県の重要無形民俗文化財に指定◉3月／納所小学校校舎改築／郷土資料館完成◉7月／中央公民館完成

昭和56年（1981年）

◉2月／多久市消防団が日本消防協会から「最高栄誉賞まとい」を受賞◉3月／佐賀女子高校多久校舎閉校◉4月／市立病院病棟完成◉5月／佐賀県食肉センター完成（南多久町）◉7月／歴史民俗資料館完成◉11月／横山簡易水道給水開始

昭和57年（1982年）

◉3月／多久市総合計画を策定◉5月／多久市農協・納所農協合併◉11月／多久市消防本部に屈折はしご付き消防ポンプ自動車配置

昭和58年（1983年）

◉4月／中央中学校開校（北部中・南部中統合）／納所簡易水道給水開始◉6月／聖廟展示館完成◉8月／国鉄唐津線電化促進期成会が発足◉10月／宗之光駐日中華人民共和国特命全権大使が多久聖廟視察◉11月／多久市消防本部に化学消防車配備

三十にして立つ

昭和59年（1984年）

◉3月／多久市母子健康センター完成◉4月／東部小学校校舎改築／鬼の鼻山に草スキー場オープン◉5月／市制施行30周年記念式典／多久市コミュニティプラザ完成◉8月／多久市干ばつ対策本部設置◉12月／第1回農業まつり開催

昭和60年（1985年）

◉3月／多久市養護老人ホーム「恵光園」新築移転◉4月／第1回商工まつり開催／佐賀県植樹祭開催（鬼ノ鼻山）／西渓公園内に大宝聖林碑を整備／多久市地籍調査事業着手（第3次15年計画）◉6月／特殊旅館建築規制条例制定◉9月／第6代市長に川内昇氏就任◉12月／第1回産業まつり開催

昭和61年（1986年）

◉2月／緑が丘小学校校舎改築◉5月／第1回多久市青少年育成市民大会開催◉7月／陶板11基と夢想の座6基を聖廟や西渓公園周辺に設置◉8月／市役所にコンピューター端末機導入

昭和62年（1987年）

◉2月／住民情報システム稼動◉3月／西渓中学校校舎改築／九州横断自動車道開通（佐賀大和～武雄北方間）／北部公園オープン／妙覚寺菩提樹（桐野）が県天然記念物に指定◉4月／厳木町・多久市共同浄水場運営開始◉5月／天皇陛下が多久を御通過◉7月／多久聖廟の大改修はじまる／鬼の鼻山キャンプ場オープン◉11月／県内初のデイサービス事業開始（天寿荘）

昭和63年（1988年）

◉2月／中部小学校校舎改築◉3月／大平庵酒蔵資料館（東多久町別府）の酒造用具類が国の重要文化財に指定される◉10月／三千年前のペリカンの化石発見（西多久町藤川内）

平成元年（1989年）

◉3月／多久市社会福祉会館完成◉4月／多久市農協、北多久・西多久果協、多久市青果連が合併し多久市農業協同組合となる◉6月／陶板の古絵図復元板と歴史案内板が完成◉9月／第7代市長に百崎素弘氏就任◉11月／北部小学校校舎改築

平成2年（1990年）

◉2月／財団法人「孔子の里」設立◉3月／新・多久市総合計画策定◉4月／地籍調査事業見直し（第4次20年計画）◉6月／東多久町岩屋山渓桜公園オープン◉7月／7月2日記録的な集中豪雨により大被害を受け、各地から義援金が届く◉10月／昭和から平成にかけての多久聖廟の大改修が終わる

平成3年（1991年）

◉2月／財団法人「多久市体育協会」設立◉3月／東部中学校校舎改築◉3月／多久市土地開発公社設立◉9月／台風17号、19号で大被害を受ける◉10月／東原庠舎完成／第1回孔子まつりの開催（7万人の観衆）◉11月／名誉市民元多久市長藤井儀作氏の市民追悼式が行われる

平成4年（1992年）

◉4月／ふるさと就職奨励金制度スタート／多久ショッピングセンター「コーリー」オープン◉5月／天皇・皇后両陛下行幸啓で多久聖廟・ケアハイツやすらぎを訪問／平成3年の台風19号による風倒木処理に自衛隊の派遣を受ける◉9月／南部小学校校舎改築

平成5年（1993年）

◉4月／市内循環バス運行開始／西多久公民館落成◉7月／多久市物産館「朋来庵」完成◉9月／県内最大級の米麦大型乾燥施設が完成◉11月／中国山東省曲阜市と友好都市締結

四十にして惑わず

平成6年（1994年）

◉1月／陶祖李参平の唐人古場窯跡発掘◉3月／多久市消防署新庁舎完成／市立病院診療棟改築／今出川ふるさと公園オープン◉4月／獅子舞初披露◉5月／市制施行40周年記念式典◉7月／多久市渇水対策本部設置◉11月／佐賀地区広域市町村圏組合発足

平成7年（1995年）

◉3月／納所フルーツの森公園オープン◉10月／釈菜の舞初披露

平成8年（1996年）

◉2月／多久都市計画事業多久駅周辺区画整理事業工事着工◉4月／県立産業技術学院開校◉7月／佐賀唐津道路（厳木・多久バイパス）一般通行開始

平成9年（1997年）

◉3月／多久北部工業団地完成／メイプルタウン北原分譲開始◉6月／市内全小中学校で学校給食開始◉9月／第8代市長に横尾俊彦氏就任◉10月／市民劇場初上演◉12月／コミュニティ・プラント稼動開始（メイプルタウン区）

平成10年（1998年）

◉1月／臨時石炭鉱害復旧事業完成（多久市分）◉4月／まちづくり出前講座スタート／新馬神トンネル開通◉7月／子育て支援センター開設◉8月／佐賀地域介護保険広域化推進協議会発足／公共下水道事業着手（北多久処理区）◉9月／エルミタージュオーケストラin多久の開催◉10月／多久市ホームページ開設／第1回全国ふるさと漢詩コンテストが開催（出品作品221点）

平成11年（1999年）

◉3月／地域振興券交付／寒鶯亭が国の登録文化財指定を受ける◉4月／東部ふれあい運動広場オープン◉9月／光センサー選果機を持つミカン選果施設完成／市議会9月定例会よりケーブルテレビで放映開始◉10月／東原庠舎創設300年記念のシンポジウム、東原庠舎と湯島聖堂展、国際儒学シンポジウムin多久開催

60年のヒト＋ヒカリ ―市制施行60周年のあゆみ―

多久越（たくえつ）の60年。















❶昭和62年3月：長崎自動車道多久IC開通／❷平成4年4月：多久ショッピングセンター「コーリー」オープン／❸平成4年5月：天皇・皇后両陛下行幸啓／❹平成5年11月：中国山東省曲阜市と友好都市締結／❺平成9年3月：メイプルタウン北原分譲開始／❻平成10年4月：馬神トンネル開通／❼平成11年4月：東部ふれあい運動広場オープン

平成12年（2000年）

◉2月／多久市女性議会開催◉4月／佐賀中部広域連合（広域消防・介護）スタート／介護保険制度スタート◉5月／県立病院好生館誘致促進期成会が発足／くど造り民家川打家・森家住宅移築公開／適応支援教室（知るーむ）開設／多久市史・第1巻発行（平成20年3月に完了）◉6月／緊急防災情報テレビ放送システム稼動◉7月／多久市営業本部設置／農業集落排水事業着手（納所地区）◉10月／全国生涯学習まちづくりフォーラムin多久開催◉12月／ケーブルテレビで行政放送「お知らせ多久さん」スタート

平成13年（2001年）

◉1月／多久茂文像除幕式／多久市情報公開・共有条例施行◉2月／多久スポーツビアが発足／西渓中学校体育館落成式◉12月／ふるさと情報館「幡船の里」移転オープン

平成14年（2002年）

◉3月／ISO9001認証取得◉4月／コンピューターによる多久市総合行政システム運用開始／多久工業高等学校が「総合学科」を取り入れ、「多久高等学校」へ◉6月／牟田辺低平地対策事業完成式◉7月／庁内イントラネット始動◉10月／多久市個人情報保護条例施行

平成15年（2003年）

◉3月／多久公民館落成／ISO9001返上、以降独自に業務改革推進◉4月／佐賀西部広域水道企業団へ加入◉8月／中央中学校が全日本少年軟式野球大会で全国優勝を飾る◉11月／学校からの連絡網として「e学校ネット」の開始◉12月／唐津線開通100周年記念事業の開催（県）

平成16年（2004年）

◉3月／多久スポーツクラブハウス完成／多久高等学校工業科閉科◉4月／皇太子殿下行啓◉5月／市制施行50周年記念式典

平成17年（2005年）

◉1月／西渓中学校特別教室棟完成◉3月／福岡県西方沖地震発生（多久市で震度5弱を記録）◉5月／南多久公民館落成◉10月／ふれあいバス運行開始／緑が丘小学校創立50周年記念式典◉11月／納所小学校創立50周年記念式典

平成18年（2006年）

◉3月／みず環境保全センター完成◉5月／各町公民館・小学校にAED設置◉10月／皇居での新嘗祭で天皇皇后両陛下に献穀米の献上（南多久町川島正芳氏）／天皇皇后両陛下が全国豊かな海づくり大会に御臨席のため多久を御通過

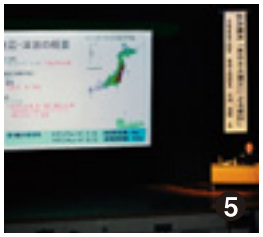
五十にして天命を知る















❶平成19年8月：多久市で開催された高校総体アーチェリー競技に高円宮妃久子様のご来席を賜る／❷平成20年1月：多久駅新駅舎開業／❸平成20年10月：多久聖廟創建300年記念式典／❹平成23年11月：フードウェイスーパーセンター多久店オープン／❺平成24年2月：多久市防災講演会を開催／❻平成25年4月：宥座の器贈呈式／❼平成25年4月：小中一貫校開校式

平成19年（2007年）

◉4月／多久市定住促進条例の施行◉8月／全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技が多久市陸上競技場を会場とし開催される／全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技に高円宮妃殿下御臨席

平成20年（2008年）

◉1月／多久駅新駅舎開業および自由通路開通◉3月／東多久公民館落成◉4月／多久聖廟創建300年記念「夢乃聖夏ドリームトークショー」◉6月／メタボリックシンドロームに着目した新健診制度『特定健診・保健指導』開始／改正地方税法成立を受けて『ふるさと納税』の受付開始◉10月／多久聖廟で観光ボランティアガイドがデビュー／多久聖廟300年記念式典　孔子像修復・孔子像遷座式◉11月／文化交流会館『なかしま』解体

平成21年（2009年）

◉3月／『NHKのど自慢』が北部小学校で開催され、全国に生放送◉6月／多久市防災行政無線開局◉9月／市内小学校全87クラスに電子黒板を配備／多久出身で天満屋女子陸上部の武冨豊監督による陸上教室開催

平成22年（2010年）

◉3月／第1回TAKU元気まつり開催◉4月／四配の像をふるさと応援寄付によって元の青銅製に復元、安置◉8月／FM佐賀で多久市の情報番組『Hello！多久』放送スタート／孔子先生イメージキャラクター決定◉10月／孔子先生イメージキャラクターの愛称『多久翁さん』を発表／多久ミュージカルカンパニーが旗揚げ公演／多久市消防団が全国消防操法大会自動車ポンプ操法の部に出場

平成23年（2011年）

◉3月／第4次多久市総合計画を策定／東日本大震災発生　市内でも義援金を募集◉5月／高取伊好翁立像除幕式◉6月／第1回よって見んしゃい！軽トラ市多久始まる（毎月第2日曜日）◉7月／多久市観光キャラクター多久翁さんを『多久市観光公使』に任命◉10月／全国女性消防操法大会で多久市女性消防隊が優良賞を受賞◉11月／フードウェイスーパーセンター多久店オープン

平成24年（2012年）

◉2月／多久市防災講演会を開催◉3月／（仮）多久市まちづくり基本条例シンポジウム◉4月／佐賀県第1回宇宙学校◉5月／佐賀県総合防災訓練（多久市にて）◉10月／宮城県南三陸町佐藤仁町長講演会（市役所にて）

平成25年（2013年）

◉3月／JR多久駅前で開催したサガン鳥栖対湘南ベルマーレ戦パブリックビューイング◉4月／小中一貫校開校式◉6月／JAXA宇宙飛行士古川聡さん講演会◉9月／多久市消防団防災功労者内閣総理大臣表彰／多久市メガソーラー発電所開始式

六十にして耳順う

資料に見る多久市



多久市観光キャラクター
多久翁さん（たくおうさん）

立地





佐賀県央として
快適さと豊かさを
兼ね備えています。

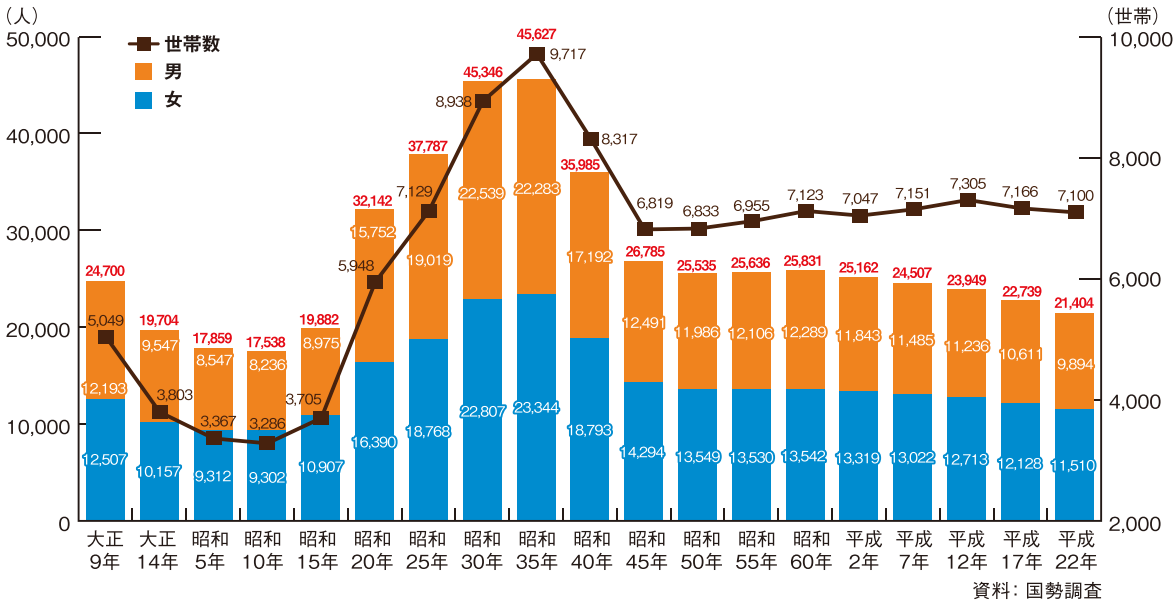
POINT



●多久インターチェンジ

■人口・世帯数・男女別人口の推移

人口



資料：国勢調査





●JR多久駅

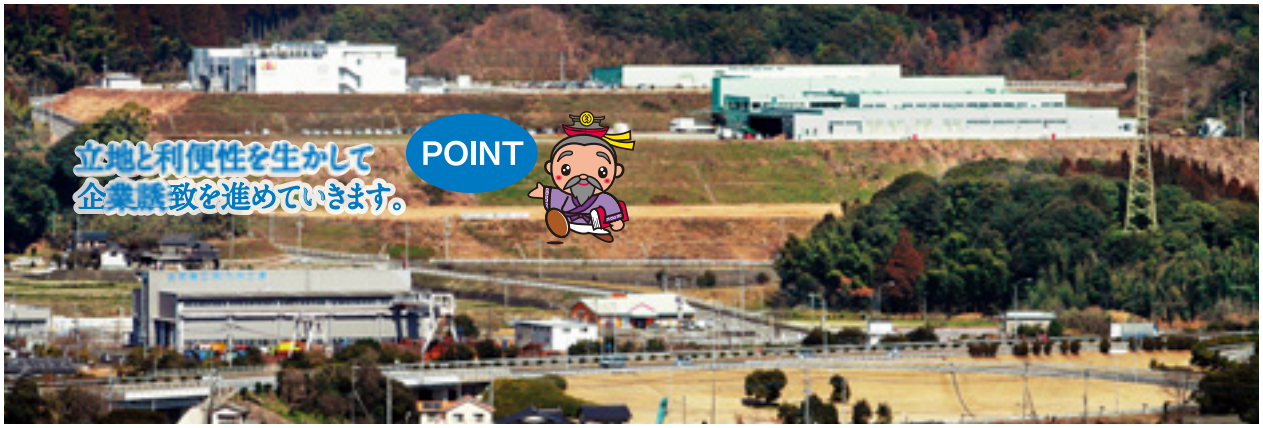
■常住人口と昼間人口（単位:人）

利便性①

昼間人口	就業者及び通学者数						流出超過数
	他市町村からの通勤通学者（流出）			他市町村への通勤通学者（流出）			
	計	県内	県外	計	県内	県外	
19,966	3,889	3,813	76	5,317	5,105	212	1,428

資料：平成22年　国勢調査





●多久北部工業団地

利便性②

■多久市内誘致企業一覧表

番号	企業名
1	興和日東株式会社
2	多久製網株式会社
3	東海佐賀株式会社
4	株式会社島田商会
5	三研工業株式会社
6	細渕電球株式会社多久工場
7	株式会社佐賀LIXIL製作所佐賀工場
8	テラル多久株式会社
9	株式会社ヒカリ多久工場
10	株式会社多久製作所九州工場
11	吉田刃物株式会社
12	不二コンクリート工業株式会社多久工場
13	九州カートン株式会社
14	タカタ九州株式会社

番号	企業名
15	株式会社エヌケープロダクツ九州工場
16	山口産業株式会社
17	三和機工株式会社九州支店
18	日立建機日本株式会社佐賀営業所
19	株式会社サガシキ九州多久工場
20	福博印刷株式会社九州プリンティングセンター
21	ミタニマイクロニクス九州株式会社
22	株式会社ヒガシトゥエンティワン多久ロジネットセンター
23	株式会社九州友成機工
24	株式会社オニザキコーポレーション
25	株式会社佐賀鉄工所多久工場
26	金方堂松本工業株式会社
27	株式会社JA食糧さが

資料：平成25年　商工観光課調べ



●牛



●みかん



●いちご

POINT

主要産業は農業。
昔からの伝統や
最新の技術を生かし、
ブランド化を進めています。

産業

■主要農産物の作付面積及び収穫量（単位:ha、t）

	水稲	小麦	二条大麦	大豆	みかん	なし	桃	いちご	たまねぎ	小ネギ	なす	アスパラガス	びわ
作付面積	564	125	270	90	233	5	6	3	5	1	1	3	10
生産量	2,700	375	675	180	5,000	71	64	119	162	12	92	50	11

資料：平成24年　農林課調べ

■家畜の飼養状況

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
飼養戸数（戸）	8	33	2	5	2
飼養頭数（頭・羽）	195	2,300	3,700	49,000	95,000

資料：平成24年　農林課調べ

■経営耕地面積（単位:ha）

総面積	田	畑
1,176	892	40

資料：2010年　世界農林業センサス

住環境


●市営住宅


●メイプルタウン


●今出川ふるさと公園


●みどりが丘公園


●北部公園


●中央公園


●東部公園



美しい自然と
住環境が自慢です。

■保育園・認定こども園一覧（単位:人）

施設名		定員数
納所保育園		60
なごみ保育園		90
とうふ保育園		60
みどり保育園		60
こばと保育園		50
和光保育園		50
杉の子保育園		90
双葉保育園		40
青い鳥保育園		90
のぞみ保育園		70
多久保育園		60
さくらんぼ保育園		60
認定こども園	ひしのみ幼稚園	60
	ひしのみ保育園	80

平成25年　福祉課調べ

POINT

保育園13園
認定こども園1園
待機児童は
ありません。

子育て


●多久市児童館

■小中一貫校・高校の状況（単位:人）

学校名	小中一貫校東原庠舎東部校（旧:納所小、東部小、東部中）		小中一貫校東原庠舎西渓校（旧:西部小、中部小、西渓中）		小中一貫校東原庠舎中央校（旧:北部小、緑が丘小、南部小、中央中）		県立多久高校
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
児童生徒数	225	146	209	122	607	352	479
学級数	10	7	10	6	21	13	12
教員数	16	18	18	17	33	32	58

資料:小中一貫校　多久市教育委員会調べ　児童生徒数:平成26年2月28日現在／教員数:平成25年5月1日現在
多久高校　多久高等学校調べ　平成25年5月1日現在

小中一貫校・高校の状況





●多久市立病院　MRI

■医療施設数（単位:施設、所）

病　　院	3

●多久市立病院
●医療法人社団高仁会　中多久病院
●医療法人剛友会　諸隈病院

一般診療所	11
歯科診療所	10

平成26年3月現在　九州厚生局

医療

POINT



多久市立病院が核となって
安心を守っています。



●ケアハウス大地

福祉

POINT



特に健康づくり・
介護予防に
取り組んでいます。

■福祉施設

居宅介護支援事業者
愛あい居宅介護支援サービス
介護相談所虹のわ
居宅介護支援センター　多久いこいの里
ケアプランサービスライフ
剛友会居宅介護支援サービス
社会福祉法人多久市社会福祉協議会
天寿荘居宅介護支援サービス
ほのぼの長屋居宅支援事業所
ホーム西渓ケアマネジメントサービス
やすらぎ居宅介護支援サービス
けいこう園　居宅介護支援事業所
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
天寿荘
老人保健施設
介護老人保健施設　ケアハイツやすらぎ
介護老人保健施設　多久いこいの里
介護療養型医療施設
医療法人剛友会　諸隈病院
グループホーム
グループホーム　けいこう園
グループホーム　大地

グループホーム
グループホーム　悠々
宅老所
たくろうしょ　ホーム西渓
たくろうしょ　ホーム西の原
ブライトネス　しもづる
杏の丘
ケアホーム　のんびり家
地域共生ステーション
地域共生ホーム　愛あい
地域共生ステーション　長楽苑
地域共生ステーション　ぬくもいホームひだまり
地域共生ステーション　つやつや
地域共生ステーション　ほのぼの
養護老人ホーム
養護老人ホーム　けいこう園
救護施設
救護施設しみず園
ケアハウス
ケアハウス大地
住宅型有料老人ホーム
住宅型有料老人ホーム　杏の丘多久

サービス付き高齢者向け住宅
虹のわ多久
老人福祉センター
老人福祉センター　むつみ荘
障害福祉サービス事業所
訪問介護センター　多久いこいの里
社会福祉法人多久市社会福祉協議会
天寿荘ホームヘルプサービス
国際協力・障がい者支援センター　愛のかけはし
天寿荘障害者短期入所事業所
ケアホーム　ほのぼの
グループホームすずかけ荘
希望塾
はなみずき1（多機能型）
パンちゃん（多機能型）
就労継続支援A型事業所ゆうゆう
はなみずき2（多機能型）
障害福祉サービス事業所多久作業所
福祉作業所　ありがとう
指定特定（一般）相談支援事業所すずかけ

平成25年　福祉課調べ

歴史文化



●歴史民俗資料館

POINT

歴史文化施設が多いまちです。



●大平庵酒蔵資料館



●多久聖廟



●くど造り民家（森家、川打家）



●専称寺

■文化施設一覧

	種別	名称
国	重要文化財	多久聖廟(S8) 附聖龕(S32)
	重要文化財	川打家住宅
	重要有形民俗文化財	肥前佐賀の酒造用具
	史跡	多久聖廟
	史跡	肥前陶器窯跡
	登録文化財	多久市西渓公園寒鶯亭
	登録文化財	木下家住宅
県	重要文化財	若宮八幡宮神殿
	重要文化財	多久家資料及び後藤家文書
	重要文化財	妙覚寺の両界曼陀羅
	重要文化財	立葵蒔絵螺鈿箏
	重要文化財	牟田辺遺跡甕棺墓出土遺跡物
	史跡	保四郎窯跡
	天然記念物	球状閃緑岩
	重要無形民俗文化財	多久聖廟釈菜
市	重要文化財	渋木の六地蔵

	種別	名称
市	重要文化財	正善寺の紙本着色仏涅槃図
	重要文化財	前多久家石造供養塔
	重要文化財	石製先家君自安先生墓誌
	重要文化財	高野神社石造肥前鳥居
	重要文化財	妙海寺の銅製鰐口
	重要文化財	少弐政資・資元の墓
	重要文化財	諫早墳
	重要文化財	島原の乱戦死者供養塔
	重要文化財	西の原大明神一字一石経一括資料
	重要文化財	両子神社の肥前鳥居
	重要文化財	島原の乱戦死者女山多久家供養塔
	重要文化財	龍造寺長信の逆修供養塔
	重要文化財	円通寺の逆修六地蔵
	重要文化財	藤川内の観音講石祠
	重要文化財	妙覚寺の刻像青面金剛石祠
	重要文化財	青銅造孔子像

	種別	名称
市	重要文化財	諸田賢順の墓
	重要文化財	木造阿弥陀如来坐像
	重要文化財	大応山円通寺山門木額
	重要文化財	内行花文鏡
	重要文化財	大工田6号古墳出土遺物
	重要文化財	森家住宅
	重要文化財	青銅製雲版
	重要文化財	百万遍念仏塔
	重要文化財	弁財天石祠
	史跡	古賀山1号古墳
	史跡	皇塔（おおやけのとう）
	天然記念物	若宮八幡宮の三本杉
	天然記念物	専称寺の大つつじ
	天然記念物	正蔵寺のまき

■スポーツ、レジャー施設一覧

多久市陸上競技場
多久市野球場
多久市庭球場
多久市アーチェリー場
多久市体育センター
多久市西多久社会体育館
多久市東部ふれあい運動広場
多久市北多久運動広場
多久市東部照明施設
多久市西渓照明施設
多久市緑が丘照明施設
多久市船山キャンプ場
多久市スポーツピアクラブハウス「ゆめひろば」健康づくりルーム



●多久スポーツピアクラブハウス「ゆめひろば」



●多久市野球場

POINT

子どもから高齢者までスポーツを楽しむまちです。

スポーツ・レジャー





■議会構成図

- 市議会
  - 議長
  - 副議長
  - 定例会（年4回開催）
  - 臨時会（臨時）
  - 常任委員会
    - 総務文教委員会（8）
    - 産業厚生委員会（8）
    - 議会広報委員会（6）
  - 特別委員会
    - 議会等行財政改革特別委員会（8）
    - 都市再生定住促進対策特別委員会（8）
  - 議会運営委員会（6）

（ ）は定数

出生 **年間147人** （平成25年）	人口 **20,876人** （平成26年1月1日現在）	世帯 **7,829世帯** （平成26年1月1日現在）	転入 一日あたり**1.4人** （平成25年）	結婚 **年間71組** （平成25年）
死亡 **年間321人** （平成25年）	当初予算額 市民1人あたり**516千円** （平成25年）	市職員数 **市民100人に1人** （平成26年1月1日現在）	転出 一日あたり**2.1人** （平成25年）	火災 建物火災**6件**・その他**6件** （平成25年）
交通事故 **2.3日に1件** （平成25年）	救急車出動 一日あたり**2.3件** （平成25年）	上水道 一世帯あたり**215m3** （平成24年度）	図書館蔵書 **50,967冊** （平成25年　多久市立図書館）	ゴミ 年間一世帯あたり**769kg** （平成24年度）

【市長インタビュー】

Q. 市制施行60周年から未来へ。多久市の抱負を教えてください。

A. 多久市では、「教育元年」として平成25年度より市内全域における小中一貫教育をスタートいたしました。また、平成26年4月からは高校生まで医療費の助成を行っていきます。これからは、単にＩＣＴを導入するということでなく、子どもたちの育ちを支え、世界を視野に日本の教育も変わっていかねばなりません。先進国の事例も参考にしながら、日本に誇る「文教の里 多久市」を切り拓いていきたいと思っています。

また、「長寿」と「健康」と「幸福」は重要なテーマです。適切な医療、自己管理が長寿社会を笑顔で穏やかにしてくれるはずです。いつまでも健康で元気に暮らせる都市を目指していきたいと思っています。

マスタープランでは、「―緑園に輝く―みんなで創る 文教・安心・交流のまち 多久」を将来像に掲げました。輝くまちは「人」が基本。地域の輝きも一人ひとりの笑顔によって、小さくてもキラリと光る、オンリーワンのまちが創られていきます。子どもから年配の方まで多久市で暮らす全ての方に、ご自身の人生を楽しんでいただきたいと思っています。



古くからの
文教の地である多久市は
教育・健康長寿を主軸に
佐賀の県央として
光を放ち続けます。

多久市長 横尾俊彦

Q. 全国のみなさんへ、キラリ光る多久市の強みを教えてください。

A. キラリと光る魅力は、たくさんありますが、特に緑のあるゆとり環境は、生きていくうえでとても重要だと考えています。多久市はわざわざ出かけずとも住宅街でホタルに出会えたり、川辺でメダカに触れることのできる「緑園」のまちです。そして、子育て支援にも力を入れています。どうぞお越しいただき、この美しい空気を体感してください。そして、これからの豊かなライフステージとして多久市を選んでいただければ光栄に思います。



PROFILE

多久市長

横尾 俊彦［よこお としひこ］

佐賀県多久市出身。松下政経塾の第1期生。5期連続で多久市長を務める。趣味は読書、音楽、映画鑑賞。学生時代からのバスケットマン。座右の銘は「天命を信じて人事をつくす」。

Facebookにて配信中

市　章

漢字で「多久」を表記し、市の大同団結と躍進を象徴したもので、昭和29（1954）年11月に決定しました。

市　旗

市の力強く発展する姿を象徴する市のかえでと、市の花うめを図案化したもので、昭和49（1974）年5月に定められました。



市の花「うめ」

自然の美しい多久市を象徴するうめは、市制施行20周年を記念して市の花に制定されました。



市の木「かえで」

初夏には新緑の葉がまぶしく、秋になると紅葉をはじめるかえでは、市の花うめとともに市制施行20周年を記念して、市の木に制定されました。

多久市の概要



多久市は佐賀県のほぼ中央部に位置し、四方を山に囲まれた盆地で、東と北は小城市小城町、佐賀市富士町、西と北は唐津市厳木町、相知町、南は、小城市牛津町、杵島郡江北町、大町町、西南は武雄市と接しています。

長崎自動車道多久インターチェンジ、国道203号、JR唐津線を擁し、海へも空へもアクセス良好のまちです。

多久市へのアクセス



航空機利用

佐賀空港から32km（車で45分）

福岡空港から64km（高速道路利用50分）

長崎空港から55km（高速道路利用45分）

JR利用

博多駅～佐賀駅 …… 特急40分
〈JR長崎・佐世保線〉

佐賀駅～多久駅 …… 30分
〈JR唐津線〉

高速道路利用

鳥栖JC～多久IC …… 30分〈長崎自動車道〉

多久市のある佐賀県






佐賀県には、佐賀市のバルーンフェスタや唐津市の唐津くんち、神埼市・吉野ヶ里町の吉野ヶ里遺跡、有田町の陶器市など、見どころが豊富です。そして、多久市にも多久聖廟をはじめとする歴史的遺産や観光名所など数多くあります。

多久市歳時記

1月
多久聖廟初詣
七草粥会・女山大根まつり
もぐら打ち

3月
孔子の里「桜まつり」

4月
多久聖廟春季釈菜
高野神社春まつり

7月
諸田賢順を偲ぶ会
砂原二十三夜祭
多久山笠



8月
岸川盆綱引き（隔年開催）

9月
七郎神社祇園祭
八幡神社秋季例祭

10月
天山祈念碑祭
両子神社祭
別府一区面浮立
多久聖廟秋季釈菜・孔子祭
多久まつり



11月
西多久ふれあいまつり
佐賀県技能まつり・産技祭
孔子の里「紅葉まつり」
論語カルタ大会
ふいご祭

12月
多久聖廟お火たき





多久住（ス）マイル通信

多久市には、時の鼓動を伝える大地がある。ゆったりと時が流れるまちがある。
そして、時を超えても変わらない、本当の豊かさがある。
60年の歴史をつむいできた絆と笑顔。
自然と笑顔になれるまち、多久の「住マイル」ライフを、あなたにも。

TAKU CITY 1954-2014 60th Anniversary

佐賀県多久市勢要覧

発行年月／平成26年3月
発行／多久市　〒846-8501 佐賀県多久市北多久町大字小侍7-1　TEL：0952-75-2111　FAX：0952-75-2110
制作／株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所